

令和5年度

上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会を開催しました



上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会（以下、協議会という。）は、令和5年度から、新たな委員でスタートしました。

令和5年7月21日（金）に協議会を開催し、医療・介護の専門職、関係団体が「住み慣れた地域で暮らし続けることができる上越地域」を目指していくことを共有しました。

令和5年2月に協議会がまとめた「第2期（令和2～4年度）における専門部会の取組と第3期（令和5～7年度）への提案」を確認し、「第3期における上越地域が目指す在宅医療・介護連携について」承認を受けました。

今後、専門部会も新たな委員で活動を展開していくため、大切にしたい考え方・言葉を資料にまとめました。今までの取組等については、がんぎネットの「活動報告」に掲載されていますので、皆さんもぜひご覧ください。

◆協議会正副会長が次のとおり選出されました

会長：高橋慶一委員（上越医師会長）

副会長：深澤ますみ委員

（新潟県立中央病院患者サポートセンター副センター長）

瀬下善人委員

（上越地域居宅介護支援事業推進協議会会長）

◆意見等

- 本協議会には4つの専門部会があるが、各々が個別に取り組んでも上手くいかない。活動報告から分かるとおり、繋がっている部分があるので、連携を図りながら進めてほしい。
- 高齢者の独居や老々介護が増えている中で、病院から退院する際に高齢者が1人で自宅へ帰る場合があり、ケアマネジャーの負担が大きくなっている。そのようなケースについて、部会で話し合いが持たれておりありがたい。急変時対応部会の説明にあったが、医療関係者と介護関係者では『急変』という言葉の解釈に違いがあるので、言葉の解釈や使い方を共通化する必要がある。
- 医療との連携について、コロナ禍により退院前カンファレンスができない事が多く、医療側と在宅側との意見交換の機会が少なかった。退院前に本人や家族、関係者との顔合わせを行うことで、退院することへの緊張を和らげたり、在宅療養の不安を軽減したりすることができると思う。
- 対人援助スキルアップ部会は、今回から対人支援スキルアップ部会に名称を変更している。その経緯については資料で確認してほしいが、言葉の意味は大きいと思っている。
- 市民啓発部会で作成したリーフレットを、薬局等で見かけたことがある。実際、活用されていることを実感した。どのような時に配布したらよいか分からないため、こういう時にこういう人に渡してほしいという方針がまとめられないか、検討してほしい。

7月27日（木）に第1回専門部会を合同で開催し、具体的な取組を協議しました。